

ケーススタディ
風車



フランス「バベルの塔」の見晴らし

高さ80メートルの塔では4つの言語が話されており、これはベルフォアにとっても普通通常ではありません。しかし、復旧とは共同作業であり、コミュニケーションでもありません。フランスの風力タービンのケースがまさにこれが当てはまるものでした。このタービンでは、最初にケーブル火災によってスイッチキャビネットが損傷し、汚染が塔全体に広がっていました。これに対して、ベルフォアは自社の国際ネットワークの利点を各所で発揮しました。メーカーから通報を受けたドイツのBELFOR Relectronicがそれをフランスの社員に伝え、社員の全力の取り組みによって現地へのクルーの派遣が早急に実現されました。ただし、被害の性質と程度が控えめに見積もっても「困難」である場合、「早急」といってもそれは「比較的」ということになります。例えば、準備作業だけでも3週間かかりましたが、それは、専用装備の用意、フランスのチームメンバーの特別な訓練、そして3つのプラットフォームの完全な入れ替えが必要だったためです。



バベルの塔
風力の活用

国際ネットワークの利点

「最も大きく、活きのいい魚は、風がほぼ吹かない外海で捕らえられる」

重たい安全保護具を身につけたチームメンバーは、週に6日間、1日最大9時間にわたって非常に厳しいデッドラインに向けて全員で作業を行い、それが功を奏することになりました。

この「バベルの塔」では、異なる4つの言語が話されていたにも関わらず、円滑なコミュニケーションがとられていました。そして、この塔は秋のはじめに復旧します。

イタリアー無送電でも頼れる国際ネットワーク

もう1つのケーススタディから、全く逆の方法でも国際ネットワークが役立つことがわかります。現場で損傷を解決できない場合、当社はそれを対応できる別の場所に「動かす」だけです。新しい2メガワットの風力タービンに起きたこともまさにこの事例です。技術的な不具合によって電気ケーブルが焼き切れてしまい、塔全体とナセルがすすで汚染されていました。最初の損傷見積りの後、ベルフォアは塔とナセルの主要な現場の洗浄を引き受けました。